

第22回全国障害者スポーツ大会 2022

いちご一いちえ 会とちぎ大会



大会報告書

はじめに

【全国障害者スポーツ大会の意義と歩み】

全国障害者スポーツ大会は、障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進することを目的として開催される国内最大の障害者スポーツの祭典です。

全国障害者スポーツ大会は、平成12年（2000年）まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合し、平成13年（2001年）に第1回大会が宮城県で開催されました。以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同じように、毎年、国民体育大会終了後に開催されています。

【いちご一いちえとちぎ大会の概要】

基本方針 「思いやりの心を広げよう！」「感動を未来へつなげよう！」「とちぎの元気をとどけよう！」「スポーツの力を実感しよう！」
また、「いちご」の生産量が半世紀にわたって日本一の栃木県。「いちご王国」で行われる大会に参加するすべての人々が、県民の心のこもった様々なおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれる大会を目指す。

大会日程 令和4年10月29日（土）～31日（月）
会場地 宇都宮市など11市
実施競技 個人7競技、団体7競技、オープン競技3種目
参加選手団 5,640人（選手3,300人 役員2,340人）
参加自治体 47都道府県+20指定都市

【札幌選手団の活躍】

選手団の構成 個人競技24人、団体競技16人、役員31人
合計71人
成績 金11個、銀5個、銅6個

【選手団の日程】

10月27日（木） 結団式・出発
10月28日（金） 団体競技出発
各会場にて公式練習
10月29日（土） 開会式・大会1日目
10月30日（日） 大会2日目
10月31日（月） 大会3日目・閉会式
11月1日（火） 帰札・解団式



夢を感動へ。
感動を未来へ。



強化練習 9月2日(金)～10月14日(金)



大会に向けて
各競技
日頃の練習の成果を
発揮できるよう・・・



選手団全体会議 10月13日(木) 札幌市身体障害者福祉センター

札幌市選手団としての留意事項・スケジュール・ユニホーム支給など、大会に向けて気持ちを一つに・・・



結団式 10月27日(木) 札幌市役所ロビー

札幌選手団団旗が浅香団長に授与された後、佐藤スポーツ部長から秋元市長に代わって「札幌市の代表として、日頃の練習の成果を十分に発揮していただき、全国から集まった仲間との一期一会の出会いを大切にいただければ幸いです」と激励の挨拶がありました。



開会式 10月29日(土) カンセキスタジアムとちぎ(宇都宮市)

雲一つない秋晴れの下、47都道府県と20政令指定都市の選手がカンセキスタジアムに入場しました。札幌市選手団は北海道に続いて2番目に緊張しながらも笑顔で行進しました。式典には秋篠宮ご夫妻がご臨席し、「『夢を感動へ。感動を未来へ。』のスローガンの下、参加者全員が活躍され、また、多くの人々が夢と感動を抱く大会になることを願っております。」と挨拶され、続いて炬火が点火されました。



各競技の紹介

◆ 陸上 (身体・知的) : カンセキスタジアムとちぎ



◆ 水泳 (身体・知的) : 日環アリーナ栃木屋内水泳場



◆ 卓球 (身体・知的・精神) : TKCいちごアリーナ



◆ **アーチェリー (身体) :**
那須烏山市緑地運動公園多目的競技場



◆ **フライングディスク (知的) :**
栃木市総合運動公園陸上競技場



◆ **ボウリング (知的) :**
足利スターレーン



◆ **ボッチャ (身体) :**
三和住宅にしなすのスポーツプラザ体育館

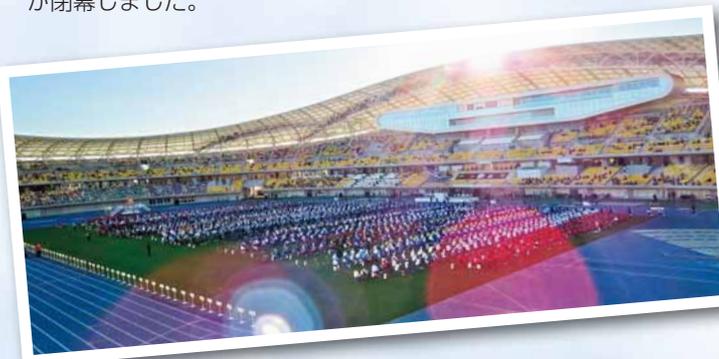


◆ **サッカー (知的) :** 真岡市総合運動公園陸上競技場・運動広場



閉会式 10月31日(月) カンセキスタジアムとちぎ

高円宮妃久子さまがご臨席され、「大会を通じて育まれた選手同士の友情や栃木県都の方々との絆が、いつまでも皆さんの心に残る貴重な思い出となることを願っております。」と挨拶された後、来年の開催地である鹿児島県に大会旗が引き継がれ、大会を見守った炬火が納火されて、3日間にわたった障がい者スポーツの祭典が閉幕しました。



お別れ会 10月31日(月) 栃木県宇都宮市

札幌選手団のお世話・応援をしてくれた
栃木県職員・ボランティアさんへ
“ありがとう” “感謝” “お疲れ様でした”



解団式 11月1日(火) 札幌市役所ロビー

団旗が浅香団長から佐藤スポーツ部長に返還された後、浅香団長が「札幌選手団、少々疲れ顔ですが、無事帰ってまいりました。選手の皆さんはこの貴重な経験を大きな財産として、この大会の参加がゴールではなく、新たなスタートに向けて、今後とも活躍してくれることを期待します。」と大会報告を行い、深井副団長が成績報告、佐藤スポーツ部長から「今回の大会で得た経験を糧に、選手の皆さんには、それぞれの夢や目標に向かって、より一層ご活躍されますことをお祈り申し上げます。」と挨拶がありました。



いちご一会とちぎ



陸上選手

岩田 勇稀

私は、この度初めて参加させて頂きました。始めは、緊張していましたが、選手の方々や役員の方々、ボランティアの皆さんに沢山のご支援を頂き、無事に良い結果を残すことができました。本当に有難うございました。

私自身、陸上競技の面白さを知った大会であり、私の競技の姿から見て下さった方々も「面白さ」を感じて頂け、共有感が生まれたなら幸いです。他県の方々とも交流ができ、とても良い経験で、充実した6日間でした。本当に有難うございました。



陸上選手

堺本 裕哉

ぼくは100mと200mに出場しました。100mはとてもよいスタートができたレースでした。200mはスタートがよかったけどとちゅうでバテしまったので来年にむけてしっかり練習をして体力をつけていきたいと思います。

はじめての1人部屋でしたが最初はわからないこともあったけど、みんなにおしえてもらいながら自分で行動ができてよかったです。来年も全国大会にえらばれるようにがんばりたいとおもいます。



水泳選手

笹谷 和巳

世界中がコロナ禍の中で、今回第22回とちぎ大会に参加し、大変な躍動感に感動致しました。すべての種目で最高記録の連続でした。そんな中、背泳ぎにて、銀メダルの栄冠を頂きました。68才の今、最高の勲章と喜びを感じています。年老いていく毎日ではありますが、何事においても「負けたらアカン」を合言葉に!!すべての災害に打ち勝ち、乗り越えて参ります。次の全国大会は必ず金メダル目指し頑張る決意です。



水泳選手

齋藤 毅

10月27日から11月1日まで栃木に行ってきました。7年ぶりの出場で嬉しかったです。日環アリーナでの競技では1日目の25m平泳ぎと2日目の50m平泳ぎでいずれも大会新記録を出し金メダルを取りました。コーチ達も喜んでくれてとても嬉しかったです。朝早い出発は辛かったですが楽しい思い出が一杯出来ました。

次の大会も選ばれるように練習を頑張りたいと思います。



卓球選手

久保田 裕花

私は、いちご一会とちぎ大会に出場しました。初めての全国大会出場なのでとても緊張しました。台風やコロナの影響で4年ぶりの開催でした。コロナ禍ということもあり練習も思うようにはできませんでした。試合には勝つことができななかったけれど、とても良い経験になりました。学生ボランティア、サポボラの人とお話できて楽しかったです。支えてくれたコーチの方々、たくさん応援してくれた選手の方々本当にありがとうございました。



卓球選手

前田 佳子

第22回いちご一会とちぎ大会に卓球競技で出場させて頂きました。私にとって初めての大きな大会でしたので、試合は緊張しましたが楽しくプレーすることが出来ました。試合は惜しくも負けてしまいましたが金メダルを頂くことが出来ました。大会では沢山の課題が見つかったので、今後には生かして更に精進したいと思います。大変貴重で楽しい思い出となりました。大会出場にあたりましてお世話になりました皆様方に感謝申し上げます。



高橋 春花

アーチェリー選手

3年超しの全国障害者スポーツ大会にやっと参加できて嬉しかったです。日本全国各地の選手や栃木の人達と交流することが出来ました全国障害者スポーツ大会札幌代表という貴重な経験が出来て光栄でした。結果はとても満足できるものではありませんでしたが、また私が出場資格を得られるようになるまでは色々な経験を積んで札幌代表に選んでいただけるよう頑張りたいと思います。最後にご協力いただいたコーチの倉知先生並びに関係者の皆様ありがとうございました。

大会を振り返って

ボウリング選手



伊藤 尚毅

3年振りに全国障害者スポーツ大会が開かれて良かったです。天候にも恵まれ、みんな最高のコンディションで競技に参加できたと思います。僕もボウリングに参加しましたがみんなの力に圧倒されてしまいました。次、チャンスがあればメダルをねらいます。ボランティアや職員のみなさまには大変お世話になりました。ホテルの人達もおいしい料理をありがとうございました。来年の鹿児島大会も大成功を願います。

フライングディスク選手



星 勇仁

私は札幌選手団として「フライングディスク」代表で行かせて頂きました。フライングディスクの会場は、栃木市にある総合運動場でした。フライングディスク競技は、コントロール性と正確さを競うアキュラシーと投げた距離を競うディスタンスが行われます。アキュラシーは5mか7mが選択をして投げ入れた投数で順位が決まり、同数だと先に失敗した人が下になります。そんな競技ですが私は何と1位を取りました。私はまぐれだと思っていませんが、また来年開催される鹿児島大会に向けて頑張ろうと思います。

ボッチャ選手



伊吹 悠衣里

全国障害者スポーツ大会いちご一會とちぎ大会に参加しました。全国大会でのボッチャ競技はの開催が初めてのこともあり、少し緊張しましたが、普段見る機会のない他の地域の選手の試合を見ることが出来たので良い勉強になりました。また出場できるよう練習に励みたいと思います。ありがとうございました。

サッカー選手



松本 竜也

私は今回初めての全国大会だった事もあり、とても緊張してしまいました。試合では得意なドリブル突破が出来る場面もありましたが、私の課題でもある戻りが遅いなど動きが悪かったと感じました。チームとして結果は3位でしたがとても悔しい気持ちです。今回の全国大会を通して多くの課題が見つかったので、来年に向けてまた練習を頑張りたいと思います。来年はチームとしても優勝目指して頑張りたいです。

(一社)札幌市手をつなぐ育成会



事務局長 深宮しのぶ

今回陸上競技に帯同する形で初参加しました。長時間の移動や朝早くからの強化練習・本番と、選手は気を抜くことができなかったかと思うのですが、皆終始明るく、そして真剣に取り組んでいたのが印象的です。最初は距離があった知的と身体の選手が、お互いのレースを観戦し応援することで、どんどん距離が縮まっていく姿を目の当たりにできたのは、「全スポ」ならではだと思えます。知的の選手のレース終了後に、マッサージの資格を持つ身体の選手が身体をほぐしてあげていたり、解団式の後、お互いの連絡先を交換したり、一緒に写真を撮る姿には、本当にジーンとききました。来年もこんな素敵な場面が見られるのかなと今からワクワクしています。

(一社)札幌市障がい者スポーツ協会



鈴木 香

「大きい、キレイ、カッコいい！」カンセキスタジアムとちぎの眺望はとても近代的で、ここで心に残る開閉会式と、競い合った陸上競技が行われました。大会全日、天候に恵まれた全国障害者スポーツ大会。4年ぶりの開催で、選手の方々は大いに待ち望んでいた事でしょう。全国から大勢の選手が集まり、その中で競技に挑む札幌市の選手の勇敢な姿を見て、大きな感動をもらいました。選手の方々がこの大会での経験を自信につなげ、更に次の大会にチャレンジし、皆さんの活躍をまた観戦できることを楽しみにしています。



【札幌選手団】名簿

団長 浅香 博文
副団長 長江 睦子 深井 貴広
総務 松井 修一 菅田 恒 石塚 義成 深宮 しのぶ 鈴木 香

陸上 (11名)

コーチ 岡崎 勇二 鎌田 幸枝
 岡田 裕樹 高橋 隆芳
選手 永井 剛司 岩田 勇稀
 堺本 裕哉 五野井 志保子
 伊藤 力哉 佐藤 爵
 村田 稔実

フライングディスク (2名)

選手 石岡 英道 星 勇仁

ボウリング (3名)

コーチ 面野 晃慶
選手 伊藤 尚毅 吉田 怜央

ボッチャ (5名)

コーチ 菅 大地 大久保 敦子
 藤井 チヅ子
選手 伊吹 悠衣里 藤井 和雄

水泳 (8名)

コーチ 高橋 ちか子 佐々木 三枝子
 佐藤 敦
選手 伊藤 梨里佳 笹谷 和巳
 竹内 大樹 齋藤 毅
 石井 飛州

サッカー (18名)

監督 小島 諭師
コーチ 馳川 尚平
選手 依田 航 梶浦 稜真
 岡本 昂平 彦根 一成
 高橋 巧 高橋 正英
 松本 竜也 工藤 龍輝
 山木 開斗 斉藤 誠
 枝松 利一 阿部 蓮
 只野 絢太郎 亀川 悠翔
 前田 拓也 紀藤 強

アーチェリー (3名)

コーチ 倉知 永子 高橋 砂織
選手 高橋 春花

卓球 (10名)

コーチ 江口 睦子 矢川 博康
 久保田 啓子 盛 和夫
 吉呉 時能
選手 前田 佳子 大木 竜也
 久保田 裕花 納谷 明子
 山本 春雄

スズポの伝言板

〈特別全国障害者スポーツ大会のお知らせ〉



大会日程 2023年10月28日(土)~30日(月)

競技会場地 鹿児島市等7市

スローガン 熱い鼓動 風は南から

マスコット ぐりぶーファミリー(ぐりぶー&さくら夫婦と子供達)

開催基本方針 ○深めよう!ふれ愛の絆
 ○見つけよう!未来に輝く夢と希望
 ○届けよう!熱い思い

実施競技 個人競技7競技、団体競技7競技、オープン競技3競技

編集後記

感染対策を徹底して開催された「いちごー会とちぎ大会」が幕を閉じました。

大会期間中は、気持ちの良い晴天が続き、天気も選手達を後押しして、笑顔笑顔でした。

札幌選手団の皆さん、日頃の練習の成果を十分発揮して、全国の舞台上で活躍したことに感謝し、札幌に元気と勇気・感動をありがとうございます。

また、強化練習・大会帯同など、選手を支えてくれたコーチ・関係者の皆さんに感謝し、選手の家族・学校・職場の皆さん、温かく大会に送り出して頂いて、心からお礼申し上げます。

選手の皆さん、この大会で得た経験は今後、間違いなく“宝もの”になると思います。…来年の鹿児島を目指して……